



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2020年4月27日

報道関係各位

延べ118団体を支援

北海道の水辺の環境保全を「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」が応援

「北海道e-水（イーミス）プロジェクト」

2020年 支援団体決定

北海道コカ・コーラボトリング株式会社(本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行)は、2009年11月に北海道との間で「環境保全に関するパートナーシップ協定」を締結し、2010年からは道内の水辺において環境保全活動を行う団体の事業に対し助成する「北海道e-水プロジェクト」を、公益財団法人北海道環境財団を加えた三者協働で実施しております。

2020年より助成金を100万円から200万円に拡大、小額の10万円コースも新設し募集しておりました助成事業について、この度、支援団体が決定しましたのでお知らせいたします。

<支援団体> (五十音順、事業概要等は別表のとおり)

■ 200万円コース (8団体)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 特定非営利活動法人いしかり海辺ファンクラブ | ② 歌登ヤツメウナギ研究会 |
| ③ えりも観光協会 | ④ 釧路自然保護協会 |
| ⑤ 栗山町八サンベツ里山計画実行委員会 | ⑥ 斜里町立知床博物館協力会 |
| ⑦ 十勝川中流部市民協働会議 | ⑧ 宮島沼の会 |

■ 10万円コース (9団体)

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| ① 旭山自然調査隊 | ② 運上屋川に清流を取り戻す会 |
| ③ 特定非営利活動法人オホーツク自然・文化ネットワーク | ④ 北野地区町内会連合会 |
| ⑤ 特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト | ⑥ 駒生川に魚道をつくる会 |
| ⑦ 特定非営利活動法人沙流川愛クラブ | ⑧ 地域協働まちづくり会議高栄小校区きずな |
| ⑨ てしかがえこまち推進協議会 | |

～北海道の環境を守る あなたの1本～



「北海道e-水プロジェクト」は、当社が販売する「い・ろ・は・す天然水 555mlPET」の売上の一部を、(公財)北海道環境財団への寄付を通じて活動団体を支援しており、2020年で11年目を迎え、支援団体は延べ118団体となります。

また、昨年に引き続き近年注目されている「プラスチックゴミ問題」への支援などを通じて、社会課題の解決に向けた取り組みを継続して推進してまいります。



北海道e-水プロジェクト

■2020年 支援団体（五十音順、敬称略）

- 対象となる事業：道内の水辺（川、海、湖沼など）において環境保全活動を行う非営利の団体（または流域ネットワーク）が行う事業。

＜例＞水辺のプラスチックごみ等に関する啓蒙活動や清掃活動、水辺の多様性保全・希少種保護、水環境保全につながる植樹、学習・体験会、水質浄化など

- 対象となる期間：2020年4月1日～2020年11月30日に実施される事業



（昨年度の採択団体活動風景）

＜200万円コース＞

	団体名／事業名	活動地域	事業概要
1	特定非営利活動法人 いしかり海辺ファンクラブ 育て、いしかりUMIBEって！海と生き物、川のつながり発見事業	石狩海岸及び石狩川流域	石狩海岸は、札幌から北へ約30kmの石狩川河口部に位置し、砂浜、海岸草原、海岸林が連続した状態で残る全国的にも数少ない自然海岸である。この自然環境を未来に残すためには、子供の頃から石狩の自然に親しみ、愛着を持つ環境作りが大切と考え、親子を対象とした自然体験活動を行っている。この活動では、石狩の自然を多様なアプローチから体験し、学ぶことで石狩の自然に愛着を持ち、将来の石狩海岸の保全を担う人材を育成する事を目的としている。プログラムは、外部の専門家や地域住民・団体と協力して実施している。今年は、海、生き物、川のつながりをテーマに、石狩川上流部の自然環境を含め、総合的な学びを行いたいと考える。
2	歌登ヤツメウナギ研究会 ヤツメウナギ幼生の生態調査及び環境保全活動	枝幸郡枝幸町歌登地区2級河川バンケナイ川及びその支流、2級河川北見幌別川	昨年、ヤツメウナギの人工ふ化に成功し約30,000匹の幼生を放流に至りましたが、実際のところ幼生が、どのように育っていくのか？等、まだまだ不明な点もあることから放流箇所を調査・観察し幼生の生育過程を知ること、地区に生息しているウチダザリガニの駆除、河川清掃等を実施して環境保全に努める。 また、継続してヤツメウナギの人工ふ化、子どもたちを対象としたフィールドワークを実施して研究会活動を維持していく。そして、広報事業では、研究会の名称を「歌登ヤツメウナギ研究会」と変更し地域と研究会の取り組みをFacebook、広報誌等にて周知する。
3	えりも観光協会 えりも高校生による襟裳岬周辺海域の海洋マイクロプラスチック調査事業	えりも町襟裳岬周辺海岸及び海域	当協会では、観光という手法から、環境活動を行いつつ、えりも町の知名度向上や来客の増加、また水産品の高付加価値を目指している。 2019年度には、地元漁師や漁協の協力のもと、「コンポートクルーズ」という昆布漁船を使ったアザラシウォッチングツアーを開発して実施し、この結果、地元のお客様の利用もあるなど、新たな展開が見えた。 そこで、本事業では、北海道えりも高等学校と連携し、地元高校生に対して、えりも町の海の現状を知る環境教育活動を行うことで、地元から地元の水産品の価値等を再認識することを目的に実施する。具体的な内容は、昆布漁船を使って沖まで行き、高校生によるマイクロプラスチックの現状を知る活動やセミナーを開催する。
4	釧路自然保護協会 手作り魚道による釧路湿原のイトウ個体群復元	釧路川流域	釧路川支流に設置されている落差工（写真参照）に道東のイトウを守る会、地域の酪農家、釣り人、漁業者、近隣市町村職員、釧路湿原自然再生協議会などの有志で4基の手作り魚道を設置し、イトウ、サケ、サクラマスをはじめとした河川棲魚類の個体群復元を図る。これは魚類を餌とするシマフクロウ、オオワシ、オシロワシ、タンチョウなどの希少鳥類の生息環境整備にもつながる。2020年度からは「釧路湿原自然再生事業」で初めての民間団体の主体事業として実施する。本事業の成果は釧路湿原自然再生協議会や国の自然再生専門家会議や様々な媒体で紹介し、自然再生手法の開発や普及と保護意識の機運醸成を図る。
5	栗山町ハサンバツ里山計画実行委員会 いきものいっぱいのみつ基地づくり！～人と自然が共生！サハバツ里山 火薬庫の沢流域整備作戦～	栗山町内夕張川流域	ハサンバツ里山流域河川において河川の環境美化及び子どもが自由に活動できるフィールド、生きもの豊かな川で遊べる環境を整えることを通じ、青少年の五感を使った原体験やいっしょに育つへの意識の醸成、親子をはじめ地域住民を含め幅広い年代の交流及び川や水の大切さを知ることきっかけとし、郷土に愛着と誇りを持つ青少年の育成に貢献する。 ①棚田跡地を、ミズバシヨウの群落地にするために種から育成した苗を移植。同時にヘイケボタルの繁殖地としていく。 ②昔のコンクリート火薬庫の残存施設を子どもたちの「のみつ基地」へ改修する。 ③7年間に及ぶ火薬庫の沢・春の小川の崩壊に対する河床低下・山崩れ防止、河川環境復元の集大成の市民工事の実施。
6	斜里町立知床博物館協会 サケ日本一の町でサケの自然産卵の重要性を伝える	斜里町内の河川及び知床博物館	サケ（シロザケ）は有用水産生物であると共に、他の多くの生物に食べられるなど生態系で重要な役割を果たす。近年、持続的なサケ漁業と健全な生態系の維持のために、人工ふ化放流に加えてサケの自然産卵の重要性も再認識されつつある。そこで本事業は、サケ日本一の町斜里町周辺の住民を対象に、①専門家を招いたサケの自然産卵に関する講演会、②サケの遡上、産卵の観察会、③自然産卵と水環境の重要性に関する展示の3つの普及、啓発活動を行う。これらの活動により、持続的な漁業や健全な生態系維持への、サケの自然産卵と水環境保全の重要性を認識してもらい、今後、流域に暮らす人々や河川管理者と協働で行う保全活動の足がかりとする。
7	十勝川中流部市民協働会議 湿地環境の維持管理によるSDGsへの貢献	十勝川中流部	十勝川中流部にある人工湿地（再樹林化防止を目的として掘削された）の維持管理を通じて、SDGsへの取り組み活動として貢献する。基本的な考え方は、 ①SDGsを『美しいローガン』にするのではなく、数値指標と具体的な行動の課題別目標として明確化する。 ②進捗率と進めべきベクトルを定期的にチェックしながら行動する。の立場をとり、以下の項目について取り組む。 ・「気候変動」については、伐採量の軽減による温室効果ガスの抑制を目指す。 ・「陸の豊かさ」については、減少し続ける生物種を環境の多様化による増加あるいは維持する。 ・「パートナーシップ」については、アイヌ民族との連携による民族文化伝承への協力を行う。
8	宮島沼の会 湿地とアートプロジェクト	宮島沼周辺	広く湿地への関心と共感を育む手段として美術教育に着目し、現代美術作家大矢りかさんを講師に自然素材を用いたネイチャーアートワークショップ、また、湿地における自然体験と美術教育を融合させたカリキュラムづくりワークショップを行う。この際、アート作品を通じた教育や普及啓発活動だけでなく、自然素材としてヨシなどをを用いることで、植生管理を通じた宮島沼の保全活動として実施する。

<10万円コース>

	団体名/事業名	活動地域	事業概要
1	旭山自然調査隊 ぼくたちの守るもの	旭山記念公園とその周辺の都市環境林内の池や川(札幌市中央区界川と円山川の源流)	地域に残る自然を残したいという子供達が結成した団体である。活動場所に残る生き物の繁殖地を将来的に保護する活動を町内会や協議会と連携して行っている。
2	運上屋川に清流を取り戻す会 運上屋川等グリーン作戦	岩内郡岩内町内の運上屋川及びポインナイ川	まちの中心部を流れる運上屋川及びポインナイ川を例年、8月下旬に各団体、事業所及び自治体による河川及び周辺のごみ拾い及び草刈りを実施する。
3	特定非営利活動法人オホーツク自然・文化ネットワーク シブツナイ湖沿岸とその集水域に分布する湿地の希少種調査	シブツナイ湖及び周辺湿地と湖へ注ぐ信東川及びシブツナイ川水系	オホーツク地域に分布する湿地には、まだ多くの希少種が生育・生息すると考えられるが、十分に調査がなされていないのが現状である。そこで、本調査では、シブツナイ湖沿岸とその集水域の湿地を対象に、希少種を中心とした生物相の調査を行い、環境省及び北海道のレッドリストに資するデータを得ることを目的とする。そして、湿地ごとに水辺環境の指標となる種の生育・生息状況を明らかにし、今後の環境保全活動及び賢明な利用のための基本データとする。
4	北野地区町内会連合会 あしりべつ川 ヤマメの稚魚放流	北野地区内厚別川(あしりべつ川)流域 [北野ふれあい橋下親水公園]	地域の子供たちと一緒に1万匹のヤマメの稚魚を厚別川(あしりべつ川)に放流する。
5	特定非営利活動法人 霧多布湿原ナショナルトラスト 地域とともに作る植物標本集 - ハーバリウム・霧多布 -	浜中町全域	「ハーバリウム」とは本来「植物標本庫」を意味する。標本は実物をともなった確実な証拠であり、将来に渡って利用できる調査研究、環境教育の基礎資料となる。よって当団体では2011年より釧路市立博物館の指導を得ながら、地域のボランティアとともに、浜中町に生育する全植物の押し葉標本をつくる活動「ハーバリウム・霧多布」を実施している。浜中町内では文献情報と合わせて844種類の植物が報告されている。現在、本活動で収集できたのは448種類である。本活動の結果をもとに、浜中町に生育する植物を網羅した図鑑の発行を目指しているため、採集や同定が難しい水草などの専門家を招いて指導を受けながら、より多くの植物の標本を採集する。
6	駒生川に魚道をつくる会 駒生川のマイクロプラスチック調査	網走群美幌町	駒生川の源流は、美幌町のごみの埋め立て地になっており、上流域に行けば行くほど、ビニールやペットボトルなどのごみが増えていく。そこで、駒生川にマイクロプラスチックが存在するのか調査を行う。
7	特定非営利活動法人 沙流川愛クラブ 豊かな河川環境の復元調査	沙流川下流域	・沙流川では二ホンウナギの生息が確認されている。これはごく限られた河川での現象で、またシヤマモ水揚げ・産卵でも有数の河川で、加えてサケ・マス類も豊富に遡上することも知られている。生息動植物・自然景観のバラエティは他に類のない個性的な河川であり、日高山脈に源流を發し、原始の河川・自然環境の一端を残す一方で、現代生活との融合を絶妙なバランスのもと維持している。 ・他方、自然災害の頻発や産業振興や生活利便のため、河川・自然環境も姿を変えつつある中、残された良好な河川・自然環境を後世に残すために、住民自らの手で、希少な動物(魚類)の調査・保全を行い、未来へつなぐ壮大な実証調査を行うものである。
8	地域協働まちづくり会議高栄小学校区 きずな 高栄南公園ビオトープ環境整備	高栄南公園ビオトープ	40年前に団地造成時にビオトープとして保全された、公園内の池が経年による周囲の変化と放置により荒れてしまい、ビオトープとしての価値の低下・周囲の柵などの破損により、事故の危険や景観の悪化と身近な親水体験が出来なくなっている現状を改善し、地域の子供達や住民が水辺に親しみ、環境学習の実施ができるための調査・環境整備を継続して実施していく。
9	てしかがえこまち推進協議会 釧路川源流部の利用・保全推進事業	弟子屈町内 釧路川源流部	弟子屈町では、屈斜路湖から流れ出る釧路川の源流部において、町内で活動する体験環境事業者をはじめ、全国からカメライストや釣り人が訪れ、川下りや釣りを楽しむ姿が見られる。持続可能な資源であるためには、カメラや釣り人などのレジャーによる利用の影響をモニタリング・データ化し、多くの利用者に向けて利用と保全の両立を啓蒙する必要があると考え、そのための第1弾として、事業者や利用者が、環境保全に対して意識を向上させるための機会として勉強会を実施する。

当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、道産子企業として、北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。

<本件に関するお問い合わせ先>

北海道コカ・コーポリング株式会社 広報・CSR推進部

担当：千葉 TEL 011-888-2091

■ 参考 1 活動の源である「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」について

- ▶ 北海道で販売される「い・ろ・は・す 天然水 555mlPET」は当社札幌工場の地下、深さ約 300メートルの井戸からくみ上げた札幌市清田区南西方向にある白旗山方面から長い年月をかけて深い地下をゆったり流れてきた天然水で、厳しい品質管理を経て皆様にお届けしております。
- ▶ リサイクルペット素材を 100%用いた“100%リサイクルペットボトル”を使うことで、「ペットボトルを資源として循環利用する“ボトル to ボトル”^{※1}」、「石油から新規に製造されるプラスチックの使用を削減^{※2}」、「ペットボトル 1 本あたりのCO₂ 排出量を 49%削減」の 3 つを実現し、環境に配慮された製品として販売しております。

※1 使用済み PET ボトルを回収・リサイクル処理したうえで、PET ボトルとして再生し、飲料の容器として用いること

※2 「い・ろ・は・す 天然水」の従来品 555ml との比較

■ 参考 2 「北海道 e-水（イームズ）プロジェクト」とは

- ▶ 北海道には豊かな水資源とそれを取り巻く美しい自然があります。この北海道の恵まれた水とそれを含む自然環境を道民全体で保全し、未来に引き継いでいくため、道民、事業者、行政の協働のもとで地域における水辺の環境保全活動に取り組む事業が「北海道 e-水プロジェクト」です。
- ▶ エコロジーをイメージする「e」と「きれいな水」というイメージを重ね合わせ、「北海道 e-水（イームズ）プロジェクト」と名付けました。
- ▶ 2010 年から始まった同プロジェクトは、これまでの 10 年間で延べ 101 団体を支援、寄付金額も 124,953,715 円となり活動の輪は全道一円に広がっています。

■ 参考 3 累計寄付金額

2008～2018 年 寄付額実績 117,551,372 円

2019 年 寄付額 7,402,343 円

寄付額累計 124,953,715 円 内) 北海道 e-水プロジェクト 100,575,520 円

■ 参考 4 「令和元年度 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」受賞（2020 年 1 月）

- ▶ 「北国のいきもの守りたい賞」とは

北海道が 2017 年度に創設した制度で、北海道における生物多様性の保全及び持続可能な利用を推進するために、道内で生物多様性の保全等に関して、優れた活動・模範的な活動を行う企業、団体、個人を表彰するもので、「北海道 e-水プロジェクト」と「白旗山での森づくり」の 2 つの当社活動が表彰されました。

- ▶ 当社活動の評価ポイント

『水を使った製品を製造する会社として、流域や森林、豊かな自然環境から高品質な水が得られるという確固たる 想いを自社商品にこめて、生態系の保全などに取り組む団体をサポートする「北海道 e-水プロジェクト」の仕組みを 評価しました。また、製品の水源である白旗山を活用した環境教育では、関係機関との連携もみられるほか、たくさんの方が参加されています。10 年目を迎えた「北海道 e-水プロジェクト」をはじめ、今後も「水」をテーマとした生態系保全の取組への支援が進化し続けることを期待します。』

(※北海道 HP より引用)

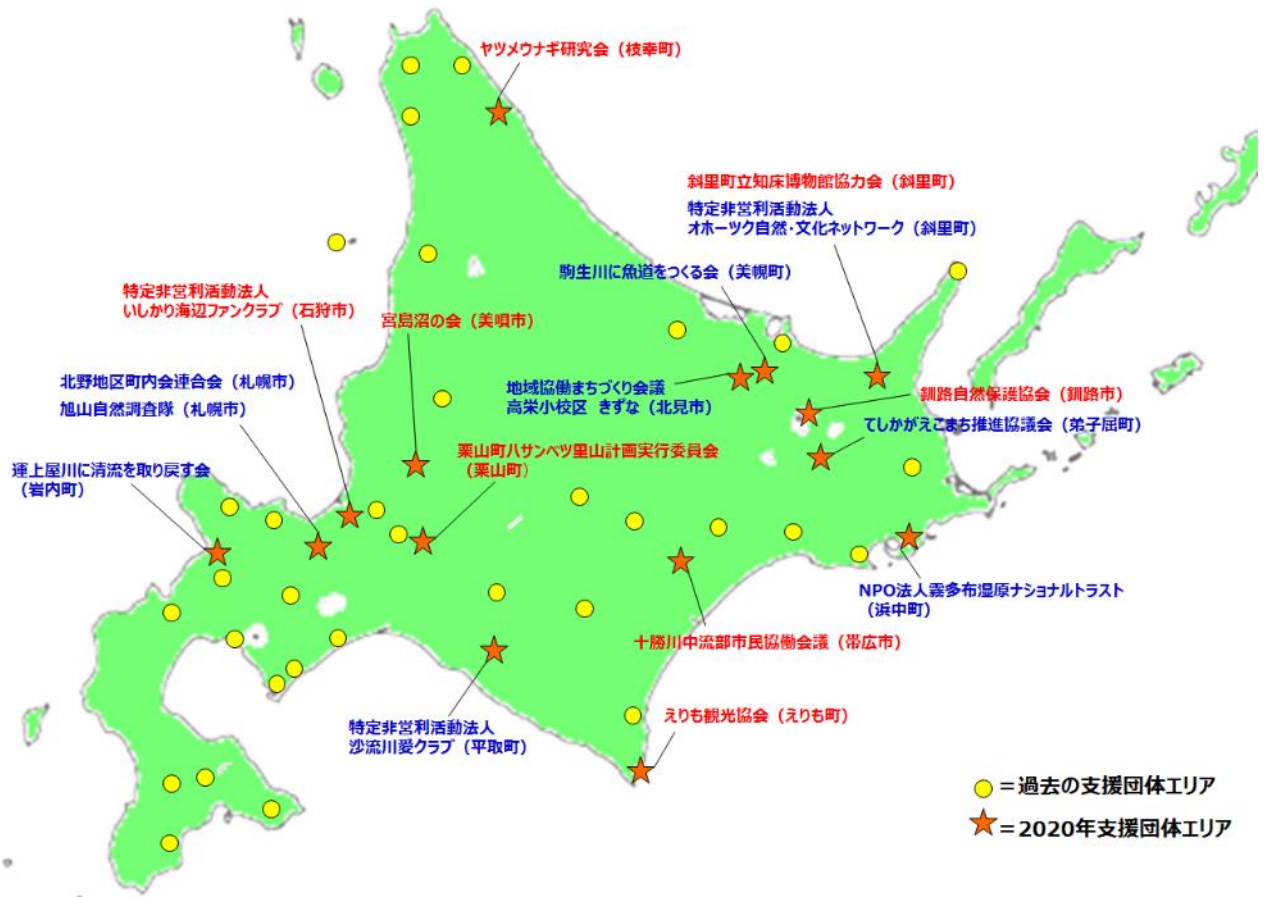


(授賞式の様子)



(企業部門 賞状)

■ 参考5 「北海道 e-水（イーミズ）プロジェクト」歴代支援団体の活動エリア



2020 年度支援団体は団体名を記載（赤字は 200 万円コース、青字は 10 万円コース）